イ　２の内容の指導に当たっては，学校図書館などを目的をもって計画的に利用し，児童が図書に親しむことができるよう配慮すること。

ウ　教材については，次の事項に留意すること。

(ｱ) 児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じ，興味・関心のある題材や生活に関連する身近な題材を中心に扱いながら，徐々に様々な種類や形式の文，文章に触れる機会を設けること。その際，児童が自分の考えや気持ちを伝える活動を重視すること。

(ｲ) 読み物教材は，場面の切り替えや筋の移り変わりが捉えやすい題材を選ぶようにすること。

〔算　数〕

１　目　標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに，日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。

(2) 日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。

(3) 数学的活動の楽しさに気付き，関心や興味をもち，学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度，算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

２　各段階の目標及び内容

○１段階

(1) 目　標

A　数量の基礎

ア　身の回りのものに気付き，対応させたり，組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。

イ　身の回りにあるもの同士を対応させたり，組み合わせたりするなど，数量に関心をもって関わる力を養う。

ウ　数量や図形に気付き，算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

B　数と計算

ア　ものの有無や３までの数的要素に気付き，身の回りのものの数に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。

イ　身の回りのものの有無や数的要素に注目し，数を直感的に捉えたり，数を用いて表現したりする力を養う。

ウ　数量に気付き，算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

C　図形

ア　身の回りのものの上下や前後，形の違いに気付き，違いに応じて関わることについての技能を身に付けるようにする。

イ　身の回りのものの形に注目し，同じ形を捉えたり，形の違いを捉えたりする力を養う。

ウ　図形に気付き，算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

D　測定

ア　身の回りにあるものの量の大きさに気付き，量の違いについての感覚を養うとともに，量に関わることについての技能を身に付けるようにする。

イ　身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し，量の大きさにより区別する力を養う。

ウ　数量や図形に気付き，算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。

(2) 内　容

A　数量の基礎

ア　具体物に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ｱ) 次のような知識及び技能を身に付けること。

㋐　具体物に気付いて指を差したり，つかもうとしたり，目で追ったりすること。

㋑　目の前で隠されたものを探したり，身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。